

## 第三者評価結果の公表事項(乳児院)

### ①第三者評価機関名

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

### ②評価調査者研修修了番号

17C037(SK18200)、16C009、16C016

### ③施設の情報

|                            |                                                 |                       |
|----------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------|
| 名称：富山県立乳児院                 |                                                 | 種別：乳児院                |
| 代表者氏名：平岩 善雄                |                                                 | 定員（利用人数）：40名 暫定定員 16名 |
| 所在地：富山県富山市牛島2丁目1番38号       |                                                 |                       |
| TEL：076-432-8137           |                                                 | ホームページ：               |
| 【施設の概要】                    |                                                 |                       |
| 開設年月日：昭和27年6月16日           |                                                 |                       |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：日本赤十字社・富山県 |                                                 |                       |
| 職員数                        | 常勤職員：26名                                        | 非常勤職員 2名              |
| 有資格<br>職員数                 | 医師 1名                                           | 看護師 5名                |
|                            | 保育士 16名                                         | 管理栄養士 1名              |
|                            |                                                 |                       |
| 施設・設備<br>の概要               | 居室・設備等                                          | 定員・面積等                |
|                            | （本館1階部分）<br>ほふく室・遊戯室、観察室、診察室、寝室、食堂、厨房、浴室、洗濯・乾燥室 | 436.17㎡               |
|                            | （本館2階部分）<br>相談室、面会室、会議室                         | 90.00㎡                |
|                            | 小規模グループケア棟                                      | 28.00㎡                |

### ④理念・基本方針

#### <理念>

児童福祉法及び児童憲章に基づき、安全で安心できる良質な生活の場を提供します。

#### <基本方針>

1. 入所児童を中心に安全で安心できる生活の場を提供します。
2. 個人情報大切に保管、管理します。

3. 児童相談所や、地域と連携して入所児童や、ご家族を支援します。
4. 職員や実習生に対する教育を充実し、次代を担う養育者を育成します。
5. 災害時（地震・火災・水害）の救護に関して訓練致します。
6. 常に赤十字病院と連携し、病気等に対して迅速に対応します。
7. 入所児童の健全な発育を促進し、保健衛生に心がけます。

#### ⑤施設の特徴的な取組

- ・ 児童相談所との連携のもと、社会的養護となった子どもの安全を最優先し、休日・時間外を問わず速やかな受け入れを行っています。
- ・ 児童相談所等関係機関との密接な連携により利用者のニーズの把握に努め、具体的な家庭復帰、親子関係再構築等の支援を行っています。
- ・ 個々の保護者の養育環境等を分析し、入所期間を通じて育児トレーニングを計画的に実施・評価し、家庭引き取りに向けた支援を行っています。
- ・ 病児・病後児保育、ショートステイ等の子育て支援に取り組んでいます。
- ・ 里親支援機関に指定され、児童相談所との連携のもと、里親養育支援を行っています。
- ・ 富山赤十字病院との連携のもと子どもの健康管理や衛生環境の向上に努めています。

#### ⑥第三者評価の受審状況

|                   |                                                 |
|-------------------|-------------------------------------------------|
| 評価実施期間            | 令和元年 12 月 4 日（契約日） ～<br>令和 2 年 4 月 8 日（評価結果確定日） |
| 前回の受審時期（評価結果確定年度） | 平成 28 年度                                        |

#### ⑦総評

##### ◇特に評価の高い点

##### 【高いリーダーシップと良好なチームワークで支える多くの笑顔】

富山県立乳児院では、院長補佐が看護キャリアを活かし運営管理に当たっている。理念及び基本方針を具体化すべく、乳児院に求められていることを「アタッチメント（愛着）形成・ペアレンティングトレーニング・保護者支援・家庭復帰・家族の再統合」と捉え、高いリーダーシップのもとこれらを目指し職員の声聴き、対話し、問題の解決を共に目指している。より良い養育の実践に向け、職員 22 名は「伝え、支え、認め合うこと」を意識し、緊急保護や入退所の利用者数により多忙を極める中、良好なチームワークで乗り切っている。職員は乳児院の特性を熟知しており、勤務経験に甘んじることなく学びへの姿勢と専門性を発揮している。子どもたち約 20 名の安らかな寝顔や屈託のない笑顔から、安心・安全な養育の実践が見えてくる。

### 【豊かな社会資源の活用と幅広いサポーターの力】

富山県下唯一の乳児院として強い使命感のもと、各種団体及び個人による施設見学等の要望はできる限り対応している。オリエンテーション資料として「乳児院のい・ち・に・ち」という紹介映像を作成し、事業の正しい理解と支援の幅を広げている。また、県内外の養成機関の学生や教員免許特例法による体験実習、中学生の14歳の挑戦、里親研修における対応など、昨年度は延べ日数で200日あまりの実績を数え、指導担当者が中心に「次世代を担う養育者を育成」という、基本方針を実践している。また、「富山市女性」、「だっこ」、「お裁縫」、「赤十字病院看護学生」などのボランティアは昨年度、750人あまりとなり、広く発信している効果と施設の丁寧な対応の表れであることが伺える。隣接している富山赤十字病院における医療連携体制や多方面からの多くの支援、たくさんのボランティアの温かな思いに触れ、子どもたちは何よりも大切な『心をはぐくむ』ことに繋がっている。

### ◇改善を求められる点

#### 【より具体的な単年度計画の策定と職員参画の仕組みの構築】

中長期計画は、令和元年度から5年度までの期間に対する、管理運営に関する収支計画書と事業計画書が策定されており、事業計画書には、事業の運営方針のもと「管理運営業務の実施計画、組織体制、その他」が詳細に挙げられている。単年度計画書においては、事業計画書「Ⅰ.運営方針」の説明と「重点項目」が6項目示すに留まっている。また、策定のプロセスも職員に十分周知が図られていない。現在、組織として日本赤十字社やさまざまな関係機関より、社会的養育に関する乳児院の動向を把握している。しかし、今後は、その内容や富山県立乳児院の状況を踏まえて、自らの組織体制や人材雇用・育成、サービスの在り方など運営全般について、職員に説明し、意向を取り入れ協議されること、また、単年度における課題を整理し、具体的な目標の設定や評価・見直しの期間を設定した計画の策定が望まれる。また、職員参画にて策定された計画は、実行意識を高め、保護者や関係者へ説明と周知により、事業に対する理解や関心がさらに高まることに期待したい。

#### 【緊急対応や緊急時に備える十分な対応の工夫】

事業の特性から考えて、利用者の予測が不確定な側面が大きく、職員配置及び人材確保・育成は、いつも課題として存在している。乳児院では、子どもを保護する使命が強く、休日及び夜間問わず関係機関と協力して、緊急的な保護に迅速かつ丁寧に対応しており、現在も暫定16名の定員に対し、20名の乳幼児の養育が行われている。また、新生児から乳児が多いため、災害など万一の対応に不安が大きく、隣接した場所に富山赤十字病院があるが、災害時の協力は厳しいことが想定される。休日及び夜間の保護、事故等の緊急時対応は、院長補佐が呼び出しで対応している現状もあるため、不測の緊急事態に備えて、いつも目の前の子どもにどのような支援が最善かについて、職員間で人材確保や勤務体制などを踏まえ検討と検証を重ね、安心して働ける環境の工夫に期待したい。

#### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、3回目となる第三者評価を受審するにあたり、普段働いている職員からは気付くことの難しい客観的な評価を得ることができました。

乳児院の事業計画の策定にあたっては、県の新たな計画を踏まえた上での目標の数値化を盛り込むなど、周囲から求められる県立乳児院像を意識する必要性について、再認識したところです。

また職員へのさらなる目標の共有化、来所者への資料等での、より一層の分かりやすい説明が必要である事のご指摘を頂戴しました。

今後、ご指摘いただいた事項については改善を試み、また評価いただいた部分に関しては継続、向上を図りながら、富山県唯一の乳児院として、地に足をつけた着実な運営を行ってまいります。

#### ⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

## 第三者評価結果（乳児院）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 23 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

### 共通評価基準（45 項目）

#### 評価対象Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

##### I-1 理念・基本方針

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                   | 第三者評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------|
| I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                   |         |
| ①                                                                                                                                                                                                                                                                                                | I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 | Ⓐ・b・c   |
| <コメント><br>理念及び基本方針は明文化し、職員に対しては、入職時のみならずスタッフルームに掲示し、常に立ち返りながら業務が遂行できる環境である。保護者等への周知については、施設玄関ホールに掲示し「ホームページ」や「富山県立乳児院のしおり」に掲載、乳児院通信広報誌「いないいないばあ」では、新年を迎えた『冬号』表面に理念と基本方針を改めて紹介し、表面フォーマットのフッター部分に毎回「乳児院の理念」を表示するなど、発行の度に、広く発信する工夫が見られる。昨年度から職員で理念及び基本方針に基づき、検討した「養育目標」を設定し、日々の養育・支援に生かせるよう取り組んでいる。 |                                   |         |

##### I-2 経営状況の把握

|                                                                                                                                                                                |                                           | 第三者評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------|
| I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。                                                                                                                                                    |                                           |         |
| ②                                                                                                                                                                              | I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 | a・Ⓑ・c   |
| <コメント><br>施設は富山県家庭的養育推進計画（前期）に基づき、富山県が施設経営環境と状況を踏まえて、日本赤十字社富山支部に指定管理者として 5 年契約によって運営されている。また、施設においても全国状況を、日本赤十字社運営の 8 乳児院施設会議や全国乳児福祉協議会等から動向や情報を得ており、施設の利用者状況は月別・期間別に統計管理をしながら |                                           |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                   |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------|
| ら、経営をとりまく環境や経営状況の把握に努めている。今後は既存データに加えて、関係機関等と連携を図りつつ、多様化・複雑化した地域や生活環境の中で、支援を必要とするであろう特定妊婦情報などのデータの分析や把握が望まれる。                                                                                                                                                                                                                                    |                                   |       |
| ③                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 | a・㉓・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>経営課題については、乳児院の動向や施設の利用状況を、職員会議や管理者会議で報告しながら、養育・支援の現状の把握と、施設運営に関連する課題についても検討や意見集約を続けている。また、指定管理者契約の形態においては、策定の仕様書に基づいて、当該期までの組織や職員体制、人材育成、設備投資、財務状況等の経営課題を踏まえた事業計画を作成し、富山県とのヒアリングを経て承認をもらい受託する仕組みとなっているため、事務長を中心に申請について取りまとめている。今後は、現状課題と認識している「人材確保、富山県社会的養育推進計画における乳児院の将来像への対応など」を、中・長期計画に具体的な取り組みとして展開していくことに期待したい。</p> |                                   |       |

### I-3 事業計画の策定

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                       |         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                       | 第三者評価結果 |
| I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                       |         |
| ④                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 | a・㉓・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>令和元年から5年間の中長期計画を策定し、理念及び基本方針のもと管理運営業務に関する基本方針、管理運営業務の実施計画内容となっている。収支計画では、人件費増と事務費（雑費）変動見込み以外は計画策定時の財務分析の見通しのまま、5年間横すべりの計画となっている。富山県社会的養護推進計画が今年度中に見直され、来年度から「中期（令和6年度末まで）」が策定される。多機能化・高機能化に向け、新たに求められる構想を注視しながら、現状を踏まえた課題を整理し、具体的な目標値の設定や期中の評価・見直し時期なども盛り込み、計画的に見直しをする取り組みが期待される。</p> |                                       |         |
| ⑤                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。  | a・㉓・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>単年度計画は、中長期計画に沿って当該年度における「I.運営方針と6つの重点項目」について記載されているが、数値化など、定量的な分析に基づく、実現可能な具体的な施策内容には至っていない。また、「2019年度 富山県立乳児院の療育目標」は中長期計画書へ明記されているが、年度養育目標は、平成31年度事業計画に盛り込むことが望ましく、中長期計画の具現化に向け、当該年度になすべき具体的な事業内容の書面化も併せて望まれる。</p>                                                                   |                                       |         |
| I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                       |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                     |       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------|
| 6                                                                                                                                                                                                                                                                                              | I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しを組織的に行われ、職員が理解している。 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画は、施設の管理者会議をはじめ職員が直面している状況を踏まえ、院長、院長補佐、事務長による協議によって策定されている。全職員に事業計画を配付し、職員会議等で、院長補佐や事務長が説明するなど周知を図っているが、職員も具体的に「何が」今年度の取り組みであるか、認識は薄い。今後は計画の具体的な取り組み内容や、進捗状況に応じて、評価・見直しをする時期の設定も望まれるが、策定段階で職員や関係者、保護者等の意見も盛り込むための手順・仕組みが、組織的に構築されることが望まれる。</p>                       |                                                     |       |
| 7                                                                                                                                                                                                                                                                                              | I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。                 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入所時や面会時に、子どもや保護者などの状況に配慮しながら、利用についてパンフレットや事業計画を用いて個別に説明する機会を設けているが、保護の状態や対応のタイミングが合わず、十分な対応に至っていない。また、事業計画について保護者に説明を行ったか、理解したか、を確認する機会は設けられていない。今後は保護者の年齢や健康・心理状態など、さまざまな状況が想定されることから、よりわかりやすい資料内容や様式の工夫と丁寧な説明・周知状況の把握が望まれる。来訪者には、情報開示書類と共に玄関ホールに閲覧可能コーナーが整備されている。</p> |                                                     |       |

#### I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

|                                                                                                                                                                                                        |                                                       |         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                        |                                                       | 第三者評価結果 |
| I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。                                                                                                                                                                     |                                                       |         |
| 8                                                                                                                                                                                                      | I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。            | a・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>養育・支援の質の向上に向けた取り組みは、年度末までに養育目標を立案する作業過程を通して検討及び評価を行っている。また、業務の見直しや情報共有のための話し合いは、開催しているが、毎年実施している自己評価や、第三者評価結果を踏まえて、改善計画の策定や評価といった一連の取り組みが、組織的に機能する体制の構築には至っていない。</p>            |                                                       |         |
| 9                                                                                                                                                                                                      | I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。 | a・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>実施されている自己評価結果に基づく結果は、可能な限り数値化し内容を共有することで、施設における他職員の認識や長所、取り組むべき課題を明確にすることができる。今後は結果をもとに運営や養育・支援についての課題整理を行い、取り組むべき内容や時期、優先順位を職員が参画して検討し、実施可能な取り組みとして事業計画に反映させる仕組みの構築が求められる。</p> |                                                       |         |

## 評価対象Ⅱ 施設の運営管理

### Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                             | 第三者評価結果        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------|
| Ⅱ-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                             |                |
| 10                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。  | a・ <b>b</b> ・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>日本赤十字社社会福祉施設規則の職員配置及び職員の職務権限の範囲において、施設院長（本務：富山赤十字病院長）の役割と責務が示されている。しかしながら、本務業務が多忙なため、通常の運営管理に支障を来すことも想定されることから、院長補佐の役職を任命し、通常の運営管理業務について委任している。院長補佐が施設運営において、乳児院通信を活用、乳児院の動向、方向性や取り組みを定期的に発信し、保護者や関係機関、ボランティアなどに対し、信頼の構築と安心感を与えている。今後は、内部規程等の文書に対し、「院長補佐」の職務権限等を明示し、リーダーシップを発揮できる環境の整備に期待したい。</p>                                                                  |                                             |                |
| 11                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。      | a・ <b>b</b> ・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>法令遵守の管理は、日本赤十字社コンプライアンスに基づいて、富山支部による管理のもと、関係書面の配布や通達・通知等が行われている。院長補佐をはじめ事務長、職員においては、社会的養護や児童養護、保育・乳児院関係諸団体・協議会の開催講演・研修会等への参加や富山赤十字病院で実施する「小児科虐待」研修にも参加して学びを深めている。職員会議において法令や倫理を正しく理解する機会を設けているが、今後は、職員一人ひとりが正しい理解や認識について、確認できる仕組みづくりに期待したい。</p>                                                                                                                    |                                             |                |
| Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                             |                |
| 12                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | Ⅱ-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。 | <b>a</b> ・b・c  |
| <p>＜コメント＞</p> <p>（院長は、富山赤十字病院長が兼務している。組織的には、院長補佐が院長に代わり院長実務を代行しているためここでは、施設長=院長補佐として評価する。）</p> <p>院長補佐は、看護師のキャリアを活かし養育・支援に関する業務を統括している。日勤帯に従事し、日々の申し送り内容で、子どもや職員の様子を観察・確認し状態把握している。また、職員会議・保育者会議・管理者会議を開催し、運営の状況伝達にも努めている。さまざまな問題や課題解決に着手するとともに、その内容によっては、事務長と共に院長や富山支部に報告・相談、適切な対応にあたっている。職員との個別面談の機会も設けており、一人ひとりの支援に対する意向や要望、ワーク・ライフ・バランスにも配慮するなど、日頃から就労環境や意欲の向上に指導力が発揮されている。</p> |                                             |                |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                          |       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------|
| 13                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>院長補佐は、富山県唯一の乳児院としてニーズに対応すべく、経営の改善や業務等について組織としてあるべき姿を追求している。昨今増加傾向にある発達支援が必要な子どもへの心理療法充実のため専門職の配置、有給休暇取得等に取り組むなど、働きやすい職場環境の整備等に努めている。また、院長補佐は、児童相談所をはじめとする関係機関との窓口となり、頻発傾向にある緊急的な対応が発生した場合、夜間及び休日についても自らが対応にあたっている。今後は、経営課題と捉えている「人材確保（産休及び育休代替職員を含む）」について、人材補充の効果的な対策を継続して検討・実践し、子どもの増加や緊急時の対応についても組織として余力を持った職員配置での対応が望まれる。</p> |                                          |       |

## Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                    |         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                    | 第三者評価結果 |
| Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                    |         |
| 14                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。 | a・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>施設運営に必要な人材は、保育士以外は日本赤十字社富山支部内の人事異動及び、保育士においては、雇用状況に応じ正規・臨時にて採用を実施している。サービスの特異性でもあるが、利用する状況が経営者の自助努力のみで増減を図れるものではないことから、職員配置基準を上回る人員体制の充足、心理担当職員の採用の検討など潜在的課題もある。また、保育士とその他の職種によって採用主体が異なり、給与体制に違いがある。今後は、同事業就労における同一賃金体制への検討や人材確保について、単年度や中・長期計画に具体的に施策として計画し、実践されることに期待したい。</p>        |                                                    |         |
| 15                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。                         | a・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>人事における基準や総合的な管理については、日本赤十字社の規約・規定によって明確化されているとともに、富山支部の指導のもと適正に遂行されている。また、日本赤十字社の社員としての使命や精神、その他の職員においても、就業規則及び倫理規定の明確化をはじめとし、施設理念・基本方針にそった教育・指導、研修等による職員の資質の向上を図っている。人事、労務、財務などの観点から、常に施設運営の適正さを検証する機会を設けて点検が行われている。職員には、2月ごろ1年間の業務振り返りを含めた面談が実施されているが、目標等について管理できるツールの活用には至っていない。</p> |                                                    |         |
| Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                    |         |
| 16                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。       | a・b・c   |
| <コメント>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                    |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                   |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------|
| <p>個別面談に基づいて、産休・育休取得、健康状態や家族状況に応じ、柔軟な勤務形態への調整などワーク・ライフ・バランスに配慮し、健康診断・予防接種等の実施、「メンタルヘルスケア・セルフケアセミナー」研修も行い、予防啓発・健康管理を実施している。20人余りの職員は、小規模なスペースで常に顔が見える職場環境にあり、コミュニケーションを大切に、風通しの良い雰囲気づくりを心がけている。そのことについては、「チームワークが良い」「職員の勤続年数が長い」「伝えやすい、声掛けしやすい雰囲気」等といった声が職員ヒアリングから聞かれたことから伺える。また、子どもの養育のみならず保護者対応等も必要なことから、常設の相談窓口として院長補佐が対応にあたっている。その内容は、院長補佐が記録し、検討や改善が必要な内容については、管理者会議及び職員会議で対応を検討している。</p>    |                                                   |       |
| Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                   |       |
| 17                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。                 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>施設としての期待する職員像を明示すると共に、組織として6つの委員会に職員は所属し、委員会での活動により組織として育成を図っている。初任者への育成対応としてプリセプター制を導入し、仕事内容を理解して業務が適切に遂行されるよう配慮している。また個人面談においても、その習得・進捗状況を確認し、職員一人ひとりの育成に向け、相談・助言・指導は実施しているが、目標管理の仕組みには至っていない。年度の養育目標を立案していることから、個々の目標項目をその年度目標と整合性を保ち、目標水準、目標期限等を用いた目標管理を設定したシート等を導入し、定期的な評価と助言の機会が確保され、育成する仕組みの構築が望まれる。</p>                                                           |                                                   |       |
| 18                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>単年度、中・長期計画において研修への取り組みが策定されている。施設内においては、委員会や職員が専門分野を活かし、令和元年度は「安全・ヒアリハット・インシデント」「愛着・発達障害」について学びの機会を設けている。外部研修では、社会的養護関係諸団体・協議会等が主催する研修が計画されているが、ともすれば勤続年数や資格などにより画一的な計画になりやすい。今後は富山乳児院として、全国乳児福祉協議会が提唱する「改訂 乳児院の研修体系-小規模化にも対応するための人材育成の指針-」が示す9つの領域（カテゴリー）と、5つのレベル（階層）に準じて展開したいと考えている。職員が自ら望むテーマの把握に加えて、従来の研修について評価や見直しを行い、それぞれがよりモチベーションを持って取り組める研修計画が編成されることを期待したい。</p> |                                                   |       |
| 19                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。              | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員は、社会的養護関係諸団体・協議会等の情報や階層、職種、テーマ、習熟等に応じた職員研修等の計画が年度当初伝えられ、受講後は、報告書提出と共に職員会議等にて他の職員に伝達報告が行われている。これまでは、社会的養護分野が主体であった計画内容に</p>                                                                                                                                                                                                                                              |                                                   |       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                          |       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------|
| <p>加えて、保育士関連の「乳幼児保育」「障害者保育」研修についても導入している。また、日本赤十字社が運営する8か所の乳児院との「赤十字施設間短期交流研修」制度を活用し、「研修テーマ」「現在の従事内容」「自施設の業務状況及び課題」「受入れ施設への意見・質問」の設問を事前に記入して送付後、日程調整する研修の機会も設けられている。研修の履歴は、院長補佐が記録として管理しているが、今後は職員自身においても、受講した研修について、全国乳児福祉協議会が提唱する研修体系の「どの領域」であり、「どのレベル」なのか履歴として管理し、キャリア形成に役立つ工夫に期待したい。</p>                                                                                  |                                                          |       |
| Ⅱ-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                          |       |
| 20                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。 | ㉠・b・c |
| <p>〈コメント〉</p> <p>平成30年度、大学・短大、専門学校等の養成機関及び教員免許特例法による体験、14歳の挑戦など多方面からの実習・研修を実人数24名、延べ日数203日の実績が、事業報告書に記載されている。中・長期計画においても、上記の受入れや里親希望者の登録前研修等を「地域に開かれた乳児院としての取り組む地域活動」と位置づけ、3名の実習担当職員を育成し、指導に充てている。実習担当者の中には、より指導力の向上を図るため「赤十字施設間短期交流研修（テーマ：実習受け入れと指導について）」を6日間受講する取り組みや、実習生や里親研修等のオリエンテーション資料として、「乳児院のい・ち・に・ち」という乳児院の紹介映像を作成するなど、基本方針に示されている「次世代を担う養育者を育成」を組織的に実践・支援している。</p> |                                                          |       |

### Ⅱ-3 運営の透明性の確保

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                      |         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                      | 第三者評価結果 |
| Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                      |         |
| 21                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。 | ㉠・b・c   |
| <p>〈コメント〉</p> <p>地域や保護者、関係機関に向けた乳児院通信を年間4回、サービス向上委員会が作成、発行している。通信には理念の紹介、院長補佐の挨拶、子どもたちの生活や寄付紹介、里親支援機関からのお知らせ、病児保育室『おひさま』だより等が掲載されている。ホームページには理念・基本方針をはじめ乳児院、養育・支援の内容、里親支援、ボランティア募集等の事業情報を紹介しているが、財務情報や事業計画及び報告については情報開示姿勢を示し、施設玄関ホールで関係書類が閲覧できるようになっている。乳児院において、子どもたちが大人と一対一でじっくり遊ぶ、だっこなどの行為によるメリットの重要性を強く感じており、「だっこボランティア」をホームページで募集したところ、多くのボランティア登録があり、活躍している。今後とも事業の特殊性に配慮しながら、財務状況や事業の計画や報告等についても公開への検討を重ね、運営の透明性や周知を図る取り組みが展開されることに期待したい。</p> |                                      |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                            |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------|
| 22                                                                                                                                                                                                                                                                                     | Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 | ㉠・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>富山県から5年毎に指定管理者として委託契約により運営されていることから、富山県による行政監査が毎年1回実施されている。日本赤十字社本社監査室の内部監査についても、経理から法令遵守、ハラスメント対応に至るまで、細かに調査が行われ、改善内容については報告まで確認されている。また別途に、富山支部が契約している公認会計士による外部監査も受けているが、来年度より日本赤十字社本社は民間の監査法人に監査支援と指導を委託することを決定しており、より公正かつ事業経営・運営の適正性を確保する組織的な体制が整っている。</p> |                                            |       |

## Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

|                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                  |         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                  | 第三者評価結果 |
| Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                  |         |
| 23                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。             | a・㉡・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入所児は0歳～2歳児である。2歳児は社会への関心も芽生え、月2回程度は職員とマンツーマンで外出し、乗り物体験や買い物・食事などの社会的体験を楽しんでおり、春と秋に少人数での遠足や、気節ごとの行事を年間10回ほど行っている。また、子育て支援施設へ出向き、当日参加している子ども同士で活動する機会も設けている。今後は地域との交流をさらに深め理解者・協力者の拡大に繋げていきたい。</p>                                                             |                                                  |         |
| 24                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。     | ㉠・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ボランティア受け入れの基本姿勢が明文化され、マニュアルも作成されている。ホームページにボランティアの募集を掲載しており、新規受け入れ時には申込書、誓約書、個人情報保護の同意書をもらい、事前説明を丁寧に行っている。ボランティア活動中は必ず職員が同伴し、ボランティアでの単独行動を認めず、乳幼児の安全確保に細心の注意を払っている。富山市女性ボランティアの会、看護学生、だっこボランティアなど年間延750人あまりを受け入れているが、情報の公開の成果もあり、年々ボランティアの希望者は増加の傾向にある。</p> |                                                  |         |
| Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                  |         |
| 25                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅱ-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。 | ㉠・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>富山県内及び新潟県の関係児童相談所と連携を密にしている。家庭支援専門相談員が1名配置されているが、養育・支援の現場に加わっており、児童相談所との主たる調整は、院長補佐が行い、必要に応じて市町村、保健所、医療機関などの連絡を行っている。また、</p>                                                                                                                                |                                                  |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                           |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------|
| 院長補佐とともに「家庭支援グループ」活動として、家族との再統合を果たせるように、保護者や関係者とも連携を深め、情報の交換・相談・協議など施設内で独自の取り組みを行っている。                                                                                                                                                                                   |                                           |       |
| Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。                                                                                                                                                                                                                                             |                                           |       |
| 26                                                                                                                                                                                                                                                                       | Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。     | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>富山県立乳児院パンフレットには理念・沿革・施設について、子育て支援事業について、入所までの流れや子供たちの1日の過ごし方などについてが分かりやすく作成されている。また、地域の福祉関係者や民生委員・児童委員など各種団体の施設見学を積極的に受け入れ、施設の理解・協力を深めてもらえるように施設説明や意見交換などを行っている。日本赤十字社富山県支部評議員会で事業報告も毎年行っている。今後はさらに、地域ニーズの掘り起こしを進め、アンケートや意見交換の場などの取り組みを期待したい。</p> |                                           |       |
| 27                                                                                                                                                                                                                                                                       | Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>県内で唯一の乳児院としてその使命を守り、質の高い養育・支援を目指し、職員は関連した研修を積極的に受講するなどの研鑽を重ねている。職員は各職種の専門性を生かし、乳児院事業のほかに病児・病後児保育、乳幼児短期入所事業、里親研修受け入れ等を行っている。また、富山県里親支援機関事務局を乳児院内に置き、里親育成・里親制度の普及や啓発活動を県内広域にわたって実施している。</p>                                                         |                                           |       |

## 評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

### Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                    |         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                    | 第三者評価結果 |
| Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                    |         |
| 28                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 | a・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>理念や基本方針に子どもを尊重した養育・支援について明文化し、施設内に適切に掲示されており、各種印刷物や保護者等向けの文書にも明示されている。また、理念や基本方針の共通理解を高めるための研修、勉強会にも積極的に取り組んでいる。勤務経験の長い専門性の高い職員が多く、安心・安全をはじめとする子どもを尊重する姿勢が、日々の生活の中で実現されており、その研修カリキュラムは、「幼児グループ」と「乳児グループ」に分け、指導計画の個別性を高めている。今後も社会の中の子どもとしての尊重を更に高めていく、先導者としての役割を継続していただきたい。</p> |                                                    |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                               |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------|
| 29                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。                      | ㉠・b・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>プライバシー保護のマニュアルが詳細に記されている。関係機関との事務連絡にはパスワード利用等を導入し、学生のレポート作成時はイニシャルとする等、個人情報保護の徹底を図っている。また、子どもの養育場面での接し方、名前の呼び方等、日々の生活に職員各自がマニュアルを吟味しながら活用している。保護者等には、施設利用時に事前説明を行っており、面会時には、職員が立ち会うこととし、フリーペーパーに記録した、面会状況を全職員が共有し、プライバシー保護意識を高めている。</p>                                                                                           |                                                               |       |
| Ⅲ-1-(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                               |       |
| 30                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅲ-1-(2)-① 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。                  | ㉠・b・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>ホームページやパンフレット、乳児院通信等で、養育・支援の様子が発信されており、保護者等にわかりやすく、必要な情報が得やすいように工夫された内容となっている。施設を利用希望の保護者等には、いつでも相談できる窓口の利用についても明示したり、個別の相談にできるだけ時間をかけて、丁寧な説明・対応を心掛けている。</p>                                                                                                                                                                      |                                                               |       |
| 31                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。                   | ㉠・b・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>養育・支援の開始にあたっては、保護者の周辺状況をよく理解して、安全・安心できる良質な生活の場であることを丁寧に説明している。また、日課・健康管理・遊び・食事などの理解を得て、保護者等から同意書を受領し、内容は書面に残している。保護者等が入所に立ち会えない場合もあるが、ルール化された方法で、時間をかけて適正な運用を行っており、保護者等に対して年4回、広報誌「いないいないばあ」を発行し、情報提供もしている。また、誠意ある電話での対応が適切なケースや面会交流のケースには、保護者の気持ちをくみ取れるように対応をしている。今後も、培われたノウハウで、多様な保護者等のニーズに応える情報提供のあり方について、更なるスキルアップに期待したい。</p> |                                                               |       |
| 32                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅲ-1-(2)-③ 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。 | ㉠・b・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>乳児が対象の施設であることから、いずれの移行についても養育・支援の継続は重要である。児童相談所との定期的な交流や対応時の連携、児童養護施設との連携、家庭への引き取り、里親への移行など個別の対応を慎重に行っている。また、「小規模グループケア棟」を利用して、家庭的養育の提供・家族復帰の訓練・親子関係を再構築のための支援・育児トレーニングなど計画的に実施・評価し、継続性に配慮した対応を行っている。</p>                                                                                                                         |                                                               |       |

|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                    |       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------|
| Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。                                                                                                                                                                                                                       |                                                    |       |
| 33                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。         | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>新生児から2歳児の養育・支援であり、個別性の高い対応が求められる中で、食事、遊び、睡眠、友達関係など観察チェックシートやフリーペーパーでの細やかな観察記録を基に、かかわる職員は情報を密に交換・共有している。不安要素を認めた場合は、チェックシートなどを活用して速やかな検討・対応を実施している。保護者等からは面会交流時に意見や希望を聞き、家庭支援専門相談員、院長補佐、自立支援計画担当者などで検討する仕組みが構築されている。</p> |                                                    |       |
| Ⅲ-1-(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。                                                                                                                                                                                                              |                                                    |       |
| 34                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。               | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>苦情解決の仕組みづくりは構築されており、マニュアルも適宜見直しを実施している。また、第三者委員会が設置されているが、案件がない状況である。ご意見箱の設置や相談窓口の明示は、保護者等へ説明をしており、メールでの問い合わせ事例はあるが、苦情としては直近数年間に事例がない。今後は入所中や退所時に、保護者等にアンケートなど実施し、希望や満足度について把握する仕組みを構築することで、更なる職員の意識の拡充に期待したい。</p>      |                                                    |       |
| 35                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅲ-1-(4)-② 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。      | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者等が気軽に相談でき、意見が述べやすいような対応について、職員教育が行われており、家庭支援専門相談員、院長補佐、各部門リーダーが窓口になっている。入所の事前説明や面会交流時・退所時にも、気軽に相談くださいと伝えており、検討や協議を必要とする場合には、事前調整なども保護者等とよく話し合っている。また、相談があった場合、個室対応をとるなど、細心の注意を払っている。</p>                             |                                                    |       |
| 36                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅲ-1-(4)-③ 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。         | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者等からの相談や意見の対応についてのマニュアルが作成され、適宜、見直しされている。職員は保護者等に接する機会があれば、意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見を傾聴するよう教育がなされている。深刻な相談も予想されるのでマニュアルの熟知を徹底しており、相談や意見は事例に応じて速やかな対応が行われている。</p>                                                      |                                                    |       |
| Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。                                                                                                                                                                                                       |                                                    |       |
| 37                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>安全・安心は施設理念である。安全管理委員会が積極的に活動しており、安全管理指針が</p>                                                                                                                                                                            |                                                    |       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                      |       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------|
| 定められ、基準が明確になっている。インシデント・アクシデントのレポートは1件ごとに評価され、レベルが決定している。1年間の報告書はレベル0～2の要注意までの内容であり、次の事故を未然に防ぐものに結びつくものであった。また、月別統計や原因分析にも取り組み、結果は、全職員が共有している。「危険予知訓練」の研修にも職員が参加している。                                                                                            |                                                      |       |
| 38                                                                                                                                                                                                                                                               | Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 | ㉠・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>感染症対応マニュアルが作成されている。法定の予防注射は、赤十字病院小児科医が訪問し、対象児に接種している。水痘、はしか、ノロウイルスなどの発症例はないが、インフルエンザなどの発生時には、医師や病院感染症対策認定看護師の指導助言を得て、個室隔離、専任職員の配置で対応している。土・日曜・祝日でも、病院との連携により受診は可能であり、早急な医療的ケアが提供されている。</p>                                                |                                                      |       |
| 39                                                                                                                                                                                                                                                               | Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。           | a・㉡・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>火災・災害発生時対応マニュアルが作成されている。病院と合同の総合訓練2回、避難先の赤十字病院までリヤカーを使用しての避難訓練を年間9回実施している。子ども一人ひとりに、手作りの防災頭巾が準備されており、全職員用に、ヘルメットも設置されている。また、食品の備蓄については病院で一括保管となっている。乳幼児全員を安全・安心な環境に置くためにも、今後は、夜間を中心に、最も少ない職員で災害時のシュミレーションを行うなど、最善の対応について検討されることが望まれる。</p> |                                                      |       |

## Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

|                                                                                                                                                                                                  |                                                 |         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------|
|                                                                                                                                                                                                  |                                                 | 第三者評価結果 |
| Ⅲ-2-(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。                                                                                                                                                                   |                                                 |         |
| 40                                                                                                                                                                                               | Ⅲ-2-(1)-① 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。 | ㉠・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>標準的な養育・支援マニュアルが乳児用・幼児用ごとに作成され、日常的に活用されており、見直しも適宜行われている。また、年間200人あまりの実習生にも活用しており、誰でもいつでも見ることができる場所に設置されている。子どもの尊重や権利擁護・プライバシーの保護についても明示され、かかわる者全てが基本姿勢を守れるよう、明文化されている。</p> |                                                 |         |
| 41                                                                                                                                                                                               | Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。         | ㉠・b・c   |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>標準的な実施方法については、入所児の日々の養育・支援状況でも見直しの必要があり、</p>                                                                                                                              |                                                 |         |



|                                                                                                                                                                                                                           |                                                    |       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------|
| 日課、週課、避難時の方法、個別的なかかわり方など、適宜、適切な見直しが行われている。また、見直した場合、マニュアルや記録等に検討、改定日の記載も行われている。                                                                                                                                           |                                                    |       |
| Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。                                                                                                                                                                                       |                                                    |       |
| 42                                                                                                                                                                                                                        | Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。         | ㉠・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>個別の自立支援計画立案にあたっては、情報収集の困難なケースもあるが、できる限りの情報集積を行い、アセスメントツールを用いて担当職員が計画立案している。職員は、対象児1～2名を担当しており、専門性の高い職員が多い職場環境にある。院長補佐、看護主任、保育主任などがサポートしており、職員会議、保育会議、アセスメント勉強会などを定例で開催し、その内容は記録され適切な策定が行われている。</p> |                                                    |       |
| 43                                                                                                                                                                                                                        | Ⅲ-2-(2)-② 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。                 | ㉠・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>自立支援計画書は、子どもの療育の基本となるものである。立案されたものが正しく実施されているか、見直しが適切になされているか、急な変更に対応できているか、など療育の質を評価するシステムが確立されている。記録監査職員2名が1ケースにつき、年2回以上監査を実施し、監査結果は施設内で公表されている。</p>                                             |                                                    |       |
| Ⅲ-2-(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。                                                                                                                                                                                            |                                                    |       |
| 44                                                                                                                                                                                                                        | Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。 | ㉠・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>療育・支援計画は、乳児や幼児の個別性が高いことから、小さな情報も大切にした個別計画書となっている。実施状況については、小さな観察や情報もフリーペーパーで詳細な記録として残しており、見直しや変更点は、全職員が共有できるように、適切な掲示場所や確認サインの記載など、周知確認の徹底を行っている。</p>                                              |                                                    |       |
| 45                                                                                                                                                                                                                        | Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。                   | ㉠・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>記録物の管理については、個人情報保護規定などに基づき、保管・保存・廃棄・情報の提供に関して細心の注意を払って対応している。また、個人情報に配慮して、専用のシュレッターを設備している。全職員に規定の遵守を徹底するべく、機会を設けて伝えているが、新規採用者には、特に具体例などで必要性を説明するなど、記録管理体制の確実な履行に今後も期待したい。</p>                     |                                                    |       |

## 内容評価基準（23 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

### A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

|                                                                                                                                                                                             |                                            | 第三者評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|---------|
| A-1-(1) 子どもの権利擁護                                                                                                                                                                            |                                            |         |
| A①                                                                                                                                                                                          | A-1-(1)-① 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。          | ㉑・c     |
| <p>＜コメント＞</p> <p>乳児院の理念・児童福祉法・児童憲章に基づき子どもの権利擁護に関する職員一人ひとりの意識が高い。職員が勤務する部屋には、「乳児院倫理綱領」が掲げられており、職員全体で確認・周知し、規定・マニュアル等で意識や理解を深めている。また、「より適切なかわりをするためのチェックポイント」を活用し、日頃の養育を振り返る取り組みが実践されている。</p> |                                            |         |
| A-1-(2) 被措置児童等虐待の防止等                                                                                                                                                                        |                                            |         |
| A②                                                                                                                                                                                          | A-1-(2)-① 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。 | a・㉑・c   |
| <p>＜コメント＞</p> <p>不適切な対応禁止として、職員が日々の心がけや職業意識として「健康・人間関係・内的コントロール・子どもの発達を正しく理解」をあげている。発見時は、報告システムを周知しており、そのルールを用いる体制を整えている。院長補佐は、職員個別面談において個々の悩みや反省等を引き出し、不適切なかかわりの未然防止や報告システムの周知を図っている。</p>  |                                            |         |

### A-2 養育・支援の質の確保

|                                                                                                                                                                                                                               |                                           | 第三者評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------|
| A-2-(1) 養育・支援の基本                                                                                                                                                                                                              |                                           |         |
| A③                                                                                                                                                                                                                            | A-2-(1)-① 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。 | ㉑・b・c   |
| <p>＜コメント＞</p> <p>子どもの身体的発達・人格形成の基礎が形成される時期において、担当職員を中心に個別的なかかわりを大切に、愛着関係を深めるよう努めている。また、養育目標や自立支援計画表の立案・評価等に責任を持てるよう、担当養育制としている。担当乳幼児は、1名から2名としており、「スマイルタイム」を設け10分～20分程度、個別に触れ合う時間を、大切に愛着度を高めている。保護者は、子どもから「先生が大好き！」という声を聞</p> |                                           |         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                      |       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|
| き、短い期間にも信頼関係が構築されていることに安心感を持っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                      |       |
| A④                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A-2-(1)-② 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。 | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもたちは、養育者との関係性が心地よく和やかに生活を送っており、小さな畑での栽培・散歩や買い物など、子どもたちの社会的体験を重視した活動を取り入れている。誕生日には個別に買い物に行き、好きな絵本等を購入する体験などを取り入れ、子どもたちにとって喜びの体験となっている。また、「自分のもの」という玩具・衣類・戸棚を準備し、子どもたちは自分の好きなものを取り出して遊び、着る物を選択できるような支援を実施している。小規模グループケア棟があり、一般的な家庭と変わらない住環境で、養育者と遊ぶ、庭に出る、風呂に養育者と入るという、当たり前な生活に近づけるよう活用している。限られた職員で家庭的な養育環境による生活支援の時間を多く持つことは、難しい状況であるが、今後もこのような機会や経験を増やし、子どもの家庭的な養育環境がより向上されることに期待したい。</p> |                                      |       |
| A⑤                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A-2-(1)-③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。       | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>養育者は、担当する子どもとの信頼関係の確立に配慮しており、子どもの特性や癖などの把握に努め、愛情豊かに細かな支援を心がけている。院長補佐との面談等で自己反省や自己評価に繋がる話し合いを実施しているが、養育者一人ひとりが、無理なく自らの養育・支援を振り返ることができるよう自己評価を工夫し、さらに充実した支援に繋がるような仕組みに期待したい。</p>                                                                                                                                                                                                             |                                      |       |
| A-2-(2) 食生活                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                      |       |
| A⑥                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A-2-(2)-① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。        | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子ども一人ひとりのミルク必要量・時間は、正確に記録しコントロールされている。授乳時は、抱いて目を合わせ、声がけするなど養育者の暖かい心も同時に感じられるようにしている。乳幼児が多い現状に、どうしても手が不十分になることもあるが、だっこボランティアが毎日訪れており、インフォーマルなサービスで充足している。また、自律授乳を目指しているが、まずは、一人ひとりの生活リズムを優先しながら授乳が行われている。</p>                                                                                                                                                                               |                                      |       |
| A⑦                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A-2-(2)-② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。    | a・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>成長・発達を考慮しながら、健診時に医師と相談し離乳開始時期を決めている。また、離乳食から移行食へは個人差を見極め、11ヶ月～1歳を目途に対応している。食事の摂食状況は栄養士も常に傍で観察し、養育者と密に連携し、食種の決定をするなど細やかな調整をしている。また、食事量と食事形態一覧表を作成し、離乳準備食・離乳食・移行食などを目安表にて確認し、子どもの様子や発達を見ながら進められている。</p>                                                                                                                                                                                      |                                      |       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                |                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------|
| A⑧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | A-2-(2)-③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。             | a・ <b>⑧</b> ・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>楽しく食べることができるように盛り付けや行事食等に配慮し、子どもが喜んで食べるよう工夫をしている。調理は富山赤十字病院厨房で行い、乳児院へ運んでいるため、食材の大きさなど、一人ひとりに合った食事に配慮している。調理員や養育者と楽しく話を交わし食事しており、あたたかい食事時間となっているが、子どもの人数が増えてきていることから、隣の和室へ広げ、グループで食事をする食事環境を設けるなど、家庭的な養育の工夫に期待したい。また、食事時間にBGMなど小さく流したり、その日によってテーブルクロスを変えてみるなど、食事がよりおいしく、楽しみな時間となるような工夫にも期待したい。</p> |                                                |                |
| A⑨                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | A-2-(2)-④ 栄養管理に十分な注意を払っている。                    | a・ <b>⑨</b> ・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>献立作成は、富山赤十字病院の栄養課で行っており、施設内調理ができないため要望は出しているが、対応まで時間を要する状況である。一人ひとりの栄養管理は、専門知識に基づいて献立作成、実際の摂取量の把握、アレルギーや疾病への配慮などの基、実施されている。また、イチゴ・キュウリ・トマト・サツマイモなどを栽培し水やり、収穫などをの体験と、収穫物を食事やおやつに提供してもらい興味・関心を持ち、食育に繋げるよう取り組んでいる。</p>                                                                               |                                                |                |
| A-2-(3) 日常生活等の支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                |                |
| A⑩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | A-2-(3)-① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。 | <b>⑩</b> ・b・c  |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>衣類は収納室で、清潔に季節や素材・サイズごとに、選別・整理されており、季節ごとに入れ替えを行っている。衣類は、綿素材のものにこだわって使用しており、個別化して各自の戸棚に収納し、子どもが好きな衣類を選べるよう数枚用意している。一時預かりの場合においても、衣類の個別化を進める方針である。</p>                                                                                                                                               |                                                |                |
| A⑪                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | A-2-(3)-② 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。           | a・ <b>⑪</b> ・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>快適に睡眠ができるように、適温・適湿を細かくチェックして配慮している。布団は大型の洗濯乾燥機で、定期的に洗浄し清潔を心がけている。入眠時は、夜勤職員2名で対応しており、乳児利用が多く授乳支援などを頻回に行う際は、安全面が懸念される。また、発熱や事故など、緊急対応が必要な場合も想定されることから、今後は人員の確保など勤務体制の工夫に期待したい。</p>                                                                                                                  |                                                |                |
| A⑫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | A-2-(3)-③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。                 | <b>⑫</b> ・b・c  |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入浴・沐浴は毎日実施し、体調不良時は清拭で対応している。沐浴は、「気持ちいいね」</p>                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                |                |

|                                                                                                                                                                                                                                        |                                                |                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------|
| <p>など、話しかけたり、あやしたりしながら、心地よい沐浴ができるようにしており、心身の安定や成長、信頼関係にもつながる取り組みとなっている。入浴については、浴槽が高い位置に設置しており、職員が抱えて浴槽に入れるなど危険な状況のため、以前から要望していた改装工事を3月中には実施し、より家庭的な環境に近い浴槽へ変更される予定である。家庭的な養育環境も考慮し、小規模グループ棟において、時折職員と一緒に入浴し、精神的な安定や大人との入浴体験を試みている。</p> |                                                |                |
| A⑬                                                                                                                                                                                                                                     | A-2-(3)-① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。             | a・ <b>⑥</b> ・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>個人差を考慮し、トイレトレーニングを行っている。一般家庭や保育所のように、排泄の自立したお手本がないということもあり、支援に難しい面もあるが、排泄への意識や自立は、乳幼児が自分への信頼にも繋がることであるため、絵本やビデオ等の利用など、適切な援助に期待したい。</p>                                                                                |                                                |                |
| A⑭                                                                                                                                                                                                                                     | A-2-(3)-① 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。         | <b>④</b> ・b・c  |
| <p>＜コメント＞</p> <p>発達段階に応じて好きな遊びを楽しんでいる。また、ままごとの好きな子ども、ブロックで遊ぶ子どもなど、コーナー別に工夫されており、玩具や絵本などは個別化され、子どもたちは、自分のマークのついた整理棚に片付けて保管している。遊びたい玩具や用具を、時々入れ替え、興味を持ち遊べるように工夫している。</p>                                                                 |                                                |                |
| A-2-(4) 健康                                                                                                                                                                                                                             |                                                |                |
| A⑮                                                                                                                                                                                                                                     | A-2-(4)-① 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。 | <b>④</b> ・b・c  |
| <p>＜コメント＞</p> <p>健康観察記録を作成し職員で共有・周知をしており、日々の健康状態の流れが、ひと目で把握できるように記録している。毎月の定期健診は、富山赤十字病院から嘱託医が来院し、相談や診察を行っている。現在アレルギーを持つ子どもはいないが、緊急一時保護の子どもは、アセスメントがなく病気・アレルギーには細心の注意を払っている。</p>                                                       |                                                |                |
| A⑯                                                                                                                                                                                                                                     | A-2-(4)-② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。  | <b>④</b> ・b・c  |
| <p>＜コメント＞</p> <p>月1回の嘱託医の健診があり、相談体制が整っている。定期的に服薬している子どもは2名おり、嘱託医・看護師との連携が図れている。急に体調が悪くなった場合は、院長補佐に連絡し、小児科に受診するなど速やかに対応している。また、病気で歩行困難の子どもには、特別にリハビリの玩具を用意するなどの支援が実践されている。</p>                                                          |                                                |                |
| A-2-(5) 心理的ケア                                                                                                                                                                                                                          |                                                |                |
| A⑰                                                                                                                                                                                                                                     | A-2-(5)-① 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。             | a・ <b>⑥</b> ・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>「乳児院における心理職のガイドライン」を参照に、心理的支援を重視している。現在、</p>                                                                                                                                                                          |                                                |                |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                     |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------|
| 心理職は、月に１回～２回、半日勤務を行い乳幼児への心理的ケア、親子関係の構築、保護者への心理的支援など、職員の良きアドバイザーとなっている。２月１７日には、保護者に対する見方、支援の仕方、かかわり方等について研修が実施されている。次年度は心理職の常勤配置を開始し、支援の充実と職員のサポートを図る予定である。                                                                                                                       |                                                     |       |
| A-2-(6) 親子関係の再構築支援等                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                     |       |
| A⑱                                                                                                                                                                                                                                                                               | A-2-(6)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。 | ㉑・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>家庭支援専門相談員は、兼務となっており院長補佐が代行することもある。家族からの相談や悩みに応じ、家族関係の調整のために信頼関係を重視しており、一人ひとりの書類（フリーペーパーと呼んでいる）に保護者からのメッセージ、施設の対応、児童相談所の対応、面会の様子等が詳しく記録され、児童相談所からの今後のスケジュール、初めての育児に備えての養育体験日程表など、保護者や家族の支援状況が見られるようになっている。</p>                                             |                                                     |       |
| A⑲                                                                                                                                                                                                                                                                               | A-2-(6)-② 親子関係の再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。          | a・㉒・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>親子関係再構築は様々なケースを留意し、個別のスケジュールを立案、経過を相互評価（保護者・乳児院・児童相談所）しながら取り組んでいる。面会や一時帰宅、外出等は、準備や計画を十分に行い、保護者の希望も取り入れ実施している。一時帰宅の際、児童相談所と協議し、電話で様子を聞き、子どもの様子や保護者のかかわりを確認しているが、個々の子どもの事情が多岐にわたり、細やかな親子関係再構築支援が必要であるため、今後は、子どもの安全・安心を確かめる意味で、児童相談所と共に家庭訪問等を実施していただきたい。</p> |                                                     |       |
| A-2-(7) 養育・支援の継続性とアフターケア                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                     |       |
| A⑳                                                                                                                                                                                                                                                                               | A-2-(7)-① 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。         | a・㉒・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの退所後のアフターケアは、退所後の生活を見越した取り組み（自立支援計画等）で行われている。子どもの新しい生活へのスムーズな移行と安定した生活を送ることができるよう支援体制を重要視している。現在のアフターケアは、児童相談所が主となることが多く、乳児院としての役割を打ち出した支援強化は課題でもある。安心・安全な新生活への移行は、乳児院の願いでもあり重要な役割と捉え、子どもたちの幸せのために関係機関・地域・支援団体等とより連携し、支援体制が充実することに期待したい。</p>           |                                                     |       |
| A-2-(8) 継続的な里親支援の体制整備                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                     |       |
| A㉑                                                                                                                                                                                                                                                                               | A-2-(8)-① 継続的な里親支援の体制を整備している。                       | ㉑・b・c |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>里親支援機関事務局を富山県から委託されており「里親制度の普及啓発」「里親認定前・更新研修」「里親相談」等を計画実施している。里親月間（２ヶ月）があり、毎週ラジオ</p>                                                                                                                                                                      |                                                     |       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                               |       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------|
| で実体験や内容などを放送しており、里親制度について知った視聴者が「だっこボランティア」に来てくれるようになった。そこから里親への関心につながったため、現在２件の里親希望があり、マッチングプランを立て進めている。                                                                                                                                                       |                                               |       |
| A－２－（９）一時保護委託への対応                                                                                                                                                                                                                                               |                                               |       |
| A㉔                                                                                                                                                                                                                                                              | A－２－（９）－① 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。   | ㉔・b・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>乳幼児の一時保護委託は乳児院が役割を担っており、随時入所を受け入れる体制を整えている。緊急時（土・日・祝祭日）の入所児の聞き取り表があり、アセスメントの情報に基づいて適切な支援を行っている。一時保護は１月までに、延べ２３名であり、夜間の入所が３５％を占めている。中・長期計画に「一時保護委託や里親の一時的な休息のための再委託に関する基本的な考え方」に記載されている。</p>                                                    |                                               |       |
| A㉕                                                                                                                                                                                                                                                              | A－２－（９）－② 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。 | a・㉕・c |
| <p>＜コメント＞</p> <p>児童相談所からの連絡に、速やかに対応し受け入れを実施している。緊急一時保護の特性として受け入れの際、既往歴をはじめとしたアセスメント情報を入手するのが困難なため、細心の注意を払い対応をしている。また、虐待等の一時保護においては、養育者の役割が大切であり、配慮や支援を重視している。緊急一時保護が昨年の倍以上に増えており、夜間に多く発生していることから、夜勤帯の職員数、安全面が懸念されるため、子どもの年齢と人数に合わせた職員数を検討し、安全に配慮した対応に期待したい。</p> |                                               |       |